

## ショートステイ

### (株)はあとふるあたご 静養室使い宿泊ニーズに対応

新潟県内で主に通所介護を展開する(株)はあとふるあたごは、三条市の「デイサービスセンターさかえ」(定員24人)で、昨年5月の開設時から自費のショートステイを運営している。

事業所内の静養室に設置した4台のベッドやデイルームの一角にある畳のスペースで、9人までが宿泊できる。これらはいずれも通所介護のための設備だが、営業時間外となる夜間帯を利用して宿泊向けに使用している。また、ショートステイに従事するスタッフも通所介護と兼務する体制だ。

代表取締役の木村淳氏は「短期入所サービスの事業所が県内で不足している現状に着目し、既存の設備や人材を生かせば低コストで同様の体制を築けると考えた」と話す。



表4●はあとふるあたご「デイサービスセンターさかえ」のショートステイの料金(税込み)

巡視回数*	1泊の利用料	朝食	夕食	オプション
0回	3500円	1泊につき 400円	1泊につき 400円	モーニングケア (洗面、歯磨き、着替え介助)  ナイトケア (洗面、歯磨き、着替え介助)  それぞれ1000円
1回	4000円			
2回	4500円			
3回	5000円			
4回	5500円			
5回以上	回数が増すことに 300円上乗せ			

※巡視とは、就寝時の見守り、おむつ交換、トイレ誘導、体位変換などのこと

### ニーズに合わせ料金を細分化

民間事業者が都道府県から短期入所生活介護の指定を受けて事業所を開設する場合、設備基準上、定員20人以上の規模が必要で、多額の開設コストがかかる。一方、通所介護の設備や職員を活用して自費のショートステイを立ち上げれば追加投資は不要だ。

その半面、介護保険なら利用者の1割負担は1日1000円未満だが、保険外では全額自費となるため、利用者にとっては割高感があるのも事実。そこでさかえではショートステイの料金設定を工夫し、メニューを細分化して利用者が自分で選択できるようにした。

具体的には、見守りやおむつ交換などの巡視の回数ごとに料金を変え、例えば巡視が不要だと1泊3500円、4回だと同5500円にした。食事は夕食と翌

日の朝食をそれぞれ400円に設定。朝晩の歯磨きや衣服の着脱の介助はオプションとし、各1000円とした。

宿泊料金の設定に当たっては、ショートステイに従事する常勤スタッフの夜勤手当をベースにした。夜勤手当は1回につき5000円。つまり、「利用者が巡視や食事などを希望して5000円以上使えば、仮に宿泊者が1人だけでも夜勤手当分はカバーできる」(木村氏)わけだ。

ショートステイを始めて1年半、利用者は徐々に増えつつある。さかえの開設後は通所介護の集客を優先し、ショートステイの営業はほとんどしなかったが、2年目に入り柔軟な受け入れ体制が認知されるようになり、通所介護の利用者から宿泊の依頼が出始めている。11月はこれまでで最大の延べ6泊となった。

「要介護者と同居する家族が週末に出かける際、「1晩だけ預けたい」との依頼が多い。介護保険の短期入所だと1泊のみの利用は事業所から敬遠されがちだが、さかえでは柔軟に対応できる」と事業所長代理の梅本育代氏は話す。

なお、平均的な利用者の場合、1泊で2回の巡視を選択して、朝夕2回の食事、オプションを含め、7300円を使うという。

「試験的に始めてみたが、ニーズがあることはわかった。今後は営業を本格化したい」と木村氏は話している。 □

「デイサービスセンターさかえ」の  
外観(左上)と静養室のベッド(左下)

#### (株)はあとふるあたご

本社	新潟市
代表者	木村 淳
介護事業の売上高	約10億円
事業内容	通所介護、福祉用具 貸与・販売、グループ ホームなどを新潟県内 で展開